明治8年（1875）

理髪料金値下り15銭，徴兵忌避起り逃亡失跡者あいつぐ。

明治9年（1876）

京阪神理髪業者交流盛んになる，男子結髪床や洛中会所が理髪店へ移向。（岡本金次郎，鵜飼弁次郎，松井常次郎，古市治三郎，沢の井喜一）京阪神鉄道開通。

明治10年（1877）

理髪店舗多くなる（柴田周吉，田島佐市，山下金助）西陣会所の理髪店へ移行（小島卯之助，小野賢次）大阪出身の谷邑吉太郎（初代賢長館京理組合創立委員）と大辻米吉（京理組合創立委員）が入京転入す。理髪料金10銭，西陣織物所設置，教育令制定，コレラ病発生。

明治11年（1878）

理髪料金8銭，三新法制定（郡区市町村編成法，府県会規則，地方税規則）

明治12年（1879）

理髪料金8銭，京都市の上京区と下京区の区制誕生。コレラ病流行す。

明治13年（1880）

谷邑吉太郎開業（賢長館初代綾小路油小路角，2年目に四条油小路角へ移転）長谷川与志雄（香川県琴平出身明治40年頃と大正4年に横浜，芝山兼太郎の東京支店長を委任さる，京理組合創立委員）が入京し四条柳馬場西入に居住す。集合集会条例制定，刑法治罪法制定，京都―大津間の鉄道開通。

明治14年（1881）

京都の髷，結髪（男子）殆んど（85％）消える。第1回京都周辺地区の合併と編入。

明治15年（1882）

長谷川与志雄（京理組合創立功労者）本式洋風理髪店開業（第2次寺町六角）京都実業界の復活と京都商業会議所開設。

明治16年（1883）

1月巡査服装心得として頭髪型を定め剃髭度を指示す（京都府，滋賀県）。不景気による米と散髪の値下ムード理髪料金8銭，米価約6銭。医師開業試験及免許規則制定，徴兵令改正。

明治18年（1885）

8月京都理髪組結成（役員不詳）上京区は平安組（推定役員　柴田周吉）下京区は協力組（推定役員　長谷川末吉）両組人800余名。料金問題起る理髪料金8銭～6銭となる。

フランスのバリカン，モール会社から大型ヘヤクリッパー（動物用）が正式輸入され人頭髪刈に使用（製造会社 BARIQAND & MORR）。疏水大工事起工，太政官廃止し内閣制度実施。

明治19年（1886）

接客店清潔法施行，理髪店上京304戸，下京504戸，合計808店。理髪料金6銭。円山公園開園。

明治20年（1887）

年季奉公徒弟養成が盛んになる，長谷川二軒床が三軒床となる（松之助，末吉，その長男の市蔵）バリカン刈1分2分（2枚刈）の丸刈及び中刈型や角刈型（ショートカット，スクエアーカット）等流行す。所得税法公布，保安条例公布，検問処置く。（京都七口と七条停車場）

明治21年（1888）

京都市内の大商店の丸刈大流行，理髪料金6銭。市町村制公布，第2回周辺地区合併と編入。六ケ村編入上京34組，二ケ村編入。下京33組の京都市67組とす。米穀凶作農村疲弊，人口と貧民増加。

明治22年（1889）

4月京都市制実施，特別市長，北垣国道知事兼任。徴税規制適用，理髪人徴税額40銭～80銭。土地収用法家屋整備により洛中や西陣の会所床減少。理髪料金6銭，米価6銭。（明治30年頃まで両価ほぼ同じ）大日本帝国憲法公布，東海道本線開通。

明治23年（1890）

頭髪中刈型（スクエアーカット）盛んになる。京都市人口増加約28万人。疏水竣工開通式。インクライン，水道，発電等できる。第1回衆議院選挙，教育勅語が道徳教育の基本としてできる。

明治24年（1891）

散髪壮士劇オッペケペ節の川上音次郎が京都初上演，理髪料金6銭～7銭。度量衡法公布，大津事件。

明治25年（1892）

「明治初年理髪店風景」画作者の五姓田芳柳画伯死去す。66才。

明治26年（1893）

「斬髪狂言」作者の河竹黙阿弥歿す。78才。理髪料金7銭，日清風雲急となる。

明治27年（1894）

理髪料金変動（戦争気運）し，8銭と値上りす，又，反動的に半額まで値下り不確定料